

鉄道係員に対する暴力行為の件数・発生状況について

— 2021年度は計406件の暴力行為が発生（全国37社局） —

一般社団法人日本民営鉄道協会	福岡市交通局
北海道旅客鉄道株式会社	埼玉新都市交通株式会社
東日本旅客鉄道株式会社	北総鉄道株式会社
東海旅客鉄道株式会社	東京モノレール株式会社
西日本旅客鉄道株式会社	株式会社ゆりかもめ
四国旅客鉄道株式会社	首都圏新都市鉄道株式会社
九州旅客鉄道株式会社	多摩都市モノレール株式会社
札幌市交通局	東京臨海高速鉄道株式会社
東京都交通局	株式会社横浜シーサイドライン
横浜市交通局	愛知環状鉄道株式会社
名古屋市交通局	大阪市高速電気軌道株式会社

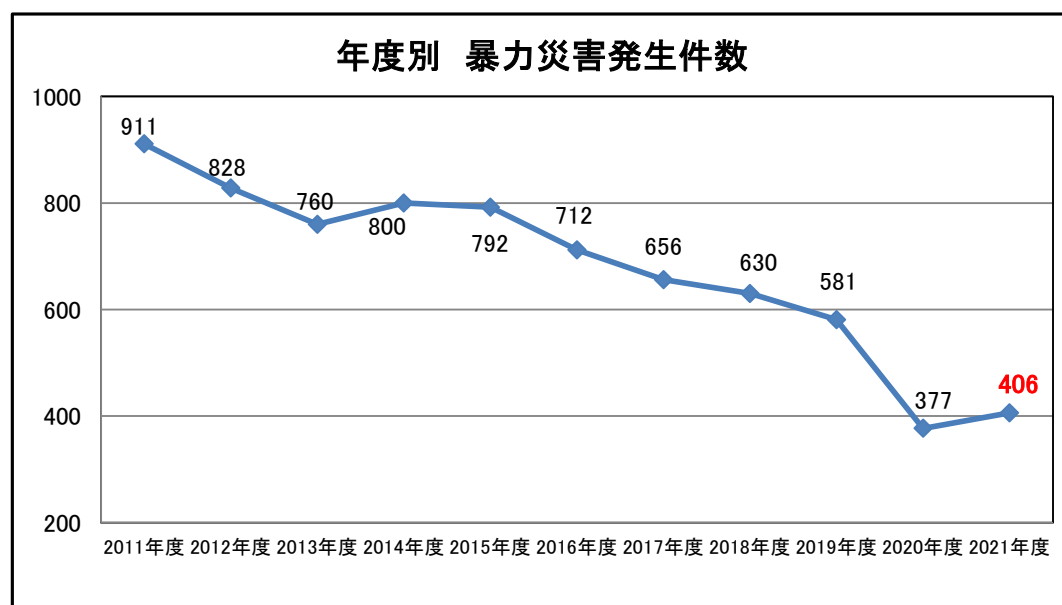
日本民営鉄道協会（大手16社）、JR北海道、JR東日本、JR東海、JR西日本、JR四国、JR九州、札幌市交通局、東京都交通局、横浜市交通局、名古屋市交通局、福岡市交通局、ニューシャトル、北総鉄道、東京モノレール、ゆりかもめ、首都圏新都市鉄道、多摩都市モノレール、東京臨海高速鉄道、横浜シーサイドライン、愛知環状鉄道、Osaka Metro では、2021年度（2021年4月～2022年3月）に発生した駅係員や乗務員等の鉄道係員に対する暴力行為件数の集計を行いました。

2021年度は37社局で406件（前年度は377件）となり、昨年比29件増加しました。2021年度は前年に引き続き、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等の外出自粛要請がありました。ワクチンの普及などにより前年より輸送人員が増加し、それに伴い暴力行為件数も増加したものと推察されます。（下表参照）

暴力行為の加害者の約58%（406件中236件）が酒気を帯びており、月別では新型コロナウイルスの新規感染者数が増加した8～9月、1～2月の発生件数が少なく、一時的に落ち着きを見せた10～12月は大幅に増加しました。曜日別では土日に多く発生しているほか、例年と異なり、水曜日にも比較的多く発生いたしました。時間帯別では深夜の発生件数が多いことから、暴力行為と飲酒に相関関係があると考えられます。加害者の年齢に偏りはなく、幅広い年代に分布しております。

長期的に暴力行為件数が減少しているのは、全国の鉄道事業者による啓発ポスターの掲出、警察官の巡回や警備員の配置、駅係員への研修、防犯カメラの駅構内・車内への設置等が抑止に大きく寄与しているものと考えられます。また、報道機関等を通じて鉄道係員に対する暴力行為が発生している現状についてお客さまに認知されたことも、暴力行為の未然防止に繋がっていると思われる。

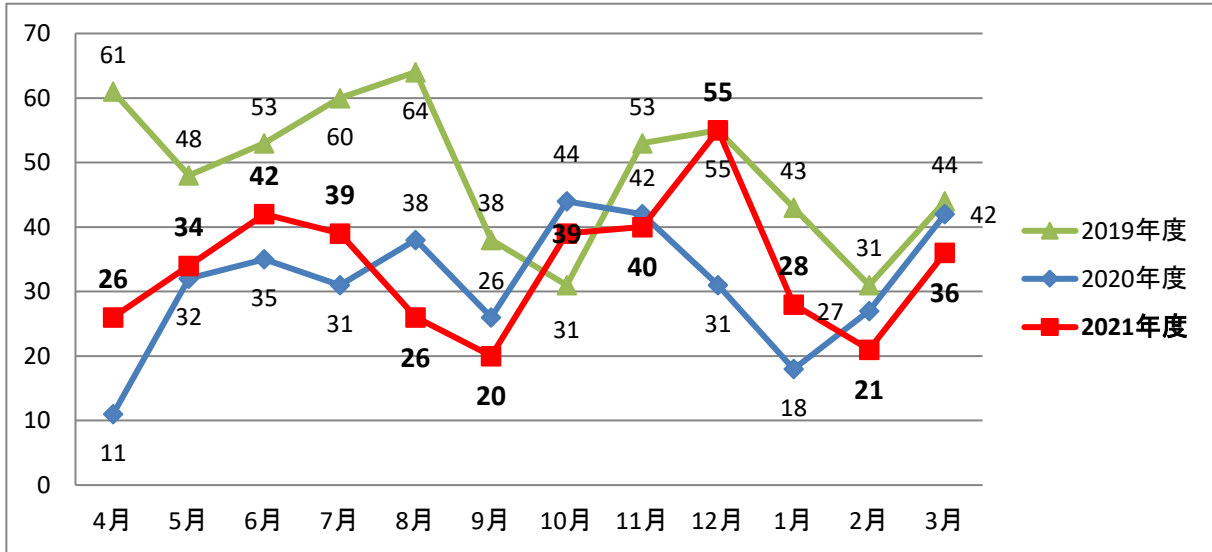
引き続き、暴力行為は絶対に許されないこと、暴力行為に対して鉄道業界全体が結束して、毅然とした態度で対応することを強く訴えてまいります。主な集計・分析結果については、別紙の通りです。



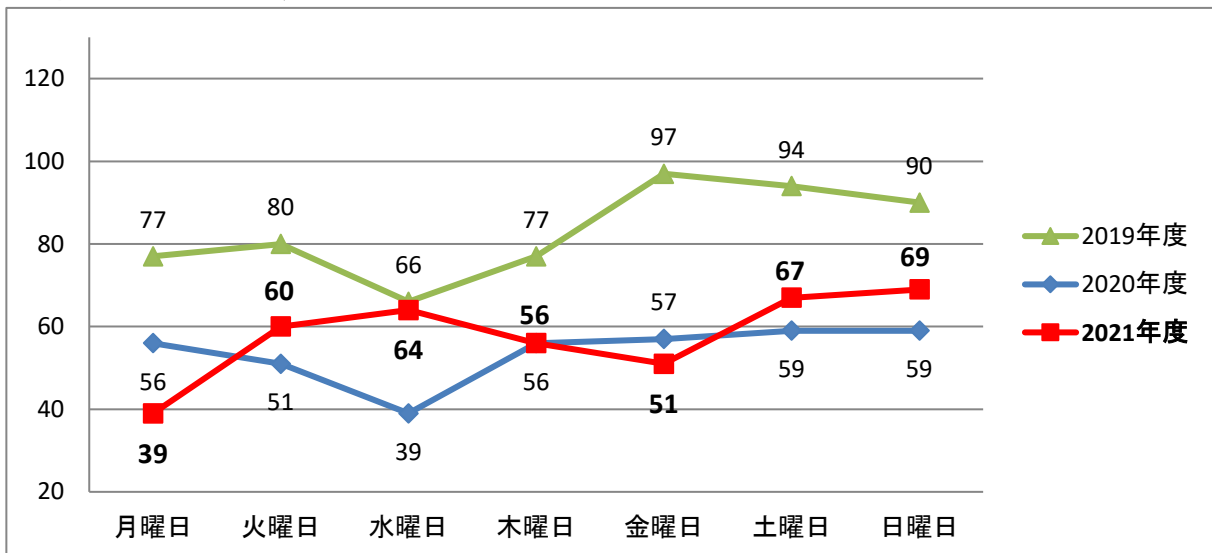
I. 鉄道係員に対する暴力行為の発生状況

暴力行為の発生状況については以下のとおりです。

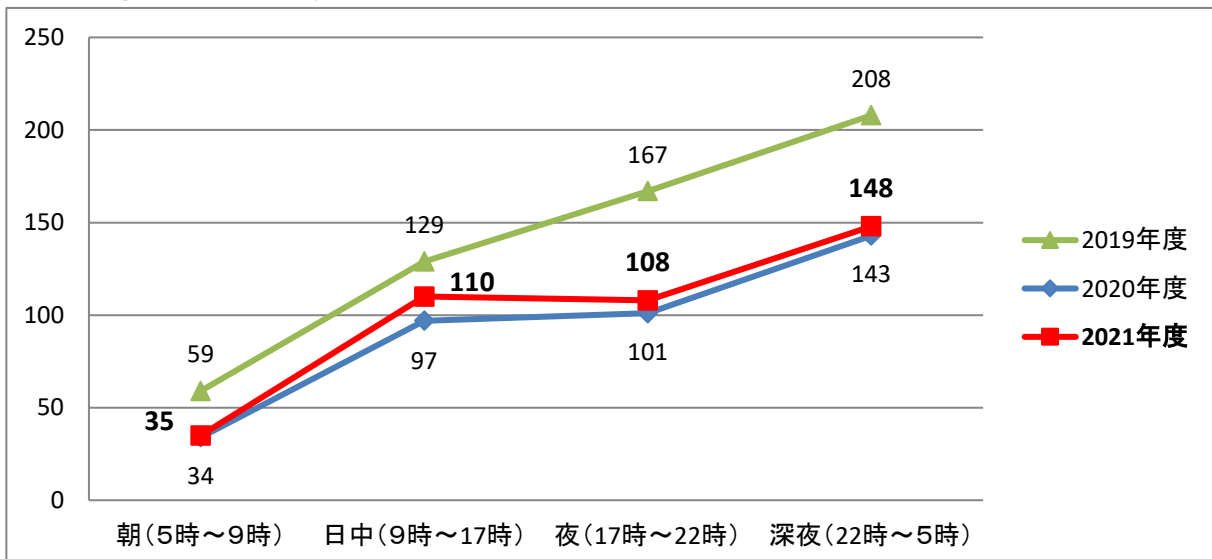
1. 月別 発生件数



2. 曜日別 発生件数



3. 時間帯別 発生件数



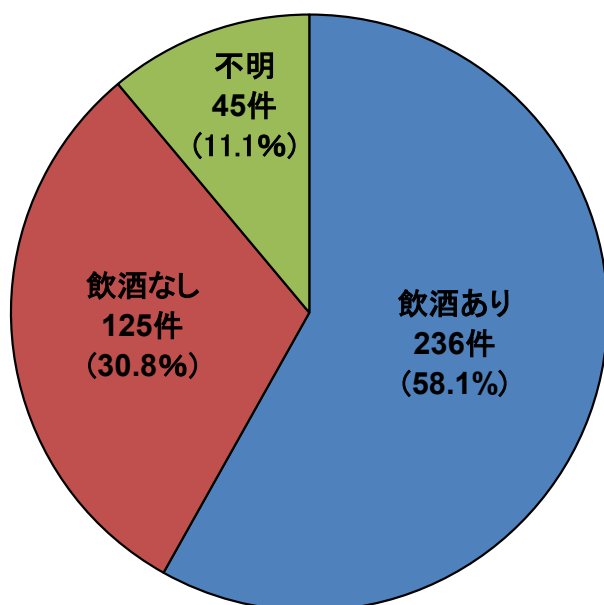
※発生時間帯不明の件数は含まず。

II. 鉄道係員に対する暴力行為の分析

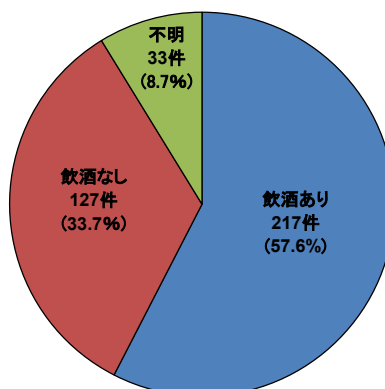
暴力行為の発生傾向については以下のとおりです。

1. 加害者の飲酒の有無

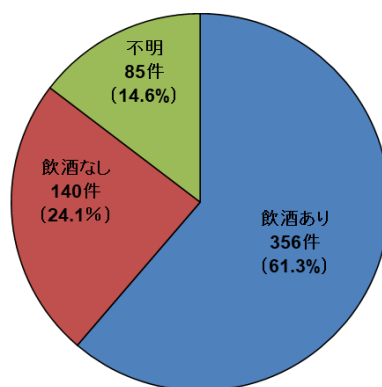
2021年度



2020年度

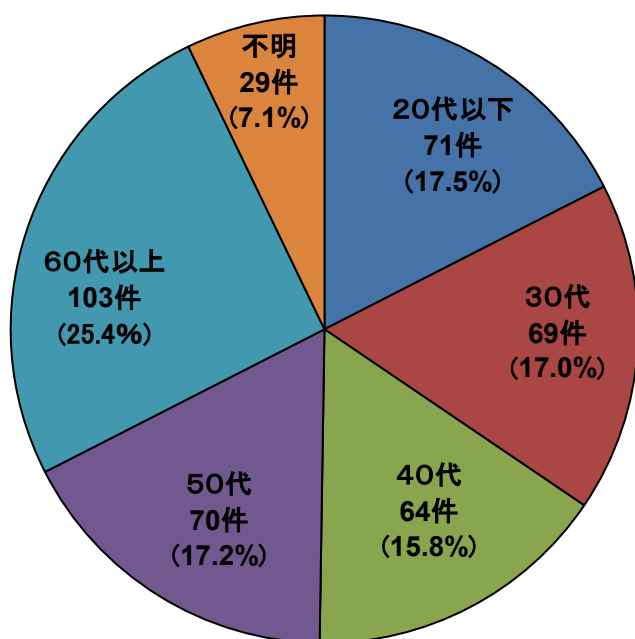


2019年度

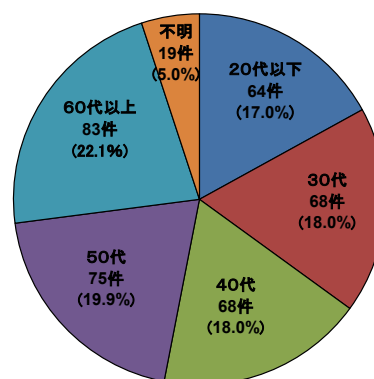


2. 加害者年齢

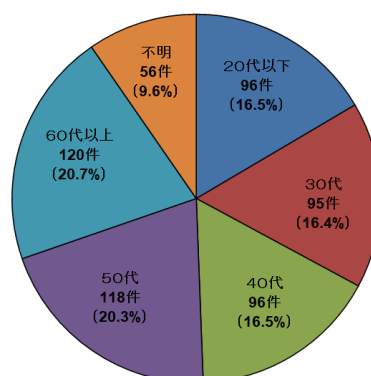
2021年度



2020年度

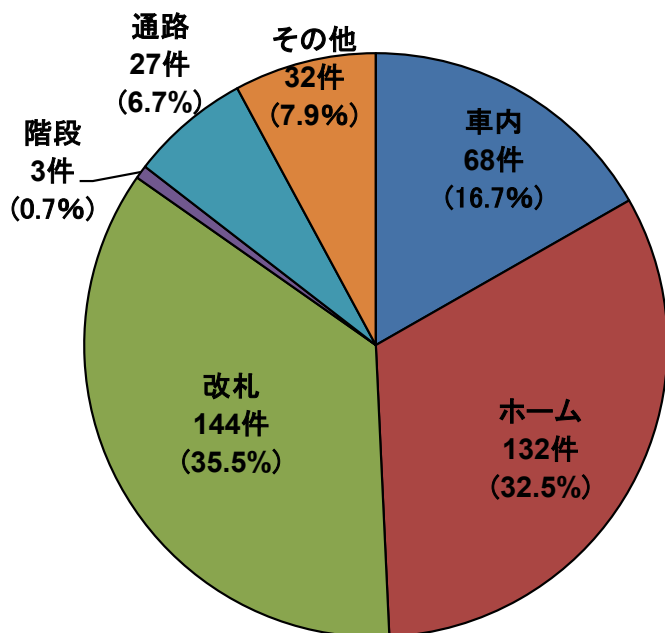


2019年度

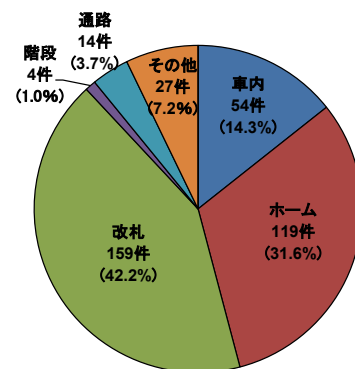


3. 発生場所

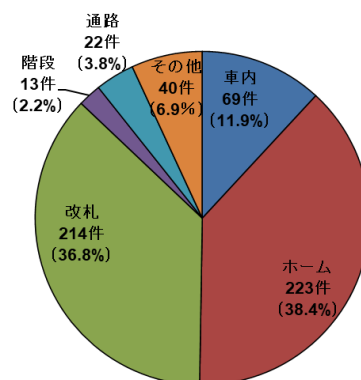
2021年度



2020年度



2019年度



以上